22世紀奈佐の浜プロジェクト

答志島 奈佐の浜海岸清掃

2026 第14回

伊勢湾の漂着ゴミは年間約１万トン、そのうち半分が鳥羽市に漂着することがわかりました。なかでも、のり漁で有名な美しい答志島の奈佐の浜に数千トンのゴミが漂着しています。
東海地域の環境団体の皆さん、市民の皆さん、漂着ゴミやそこに見える地域の環境問題、地域の保全等について一緒に考え、行動していきましょう。
この活動は、22世紀奈佐の浜プロジェクトだけが行う海岸清掃活動のイベントではありません。
ご参加の皆さんもプロジェクトの一員として、豊かな伊勢湾流域を実現する活動を進めていきましょう。

日　時	2026年 10 月 11 日（日）雨天決行 答志島桃取港への渡船運休の場合は中止となります ※前日17時にFacebook（https://www.facebook.com/umigame2009 ↑「四日市ウミガメ保存会」で検索）で告知します。
会　場	三重県鳥羽市答志島奈佐の浜他
内　容	奈佐の浜海岸清掃、意見交換会
集　合	現地集合（佐田浜鳥羽マリンターミナル） 9時
解　散	佐田浜鳥羽マリンターミナルで15時半頃に解散します。
参加費	2,000円（渡船代、昼食代、保険等）
申込み	Email に下記①～⑤をご記入の上、お申込みください。
定　員	200名
持ち物	飲料、雨具（雨天時）、軍手、健康保険証 ※サンダル不可



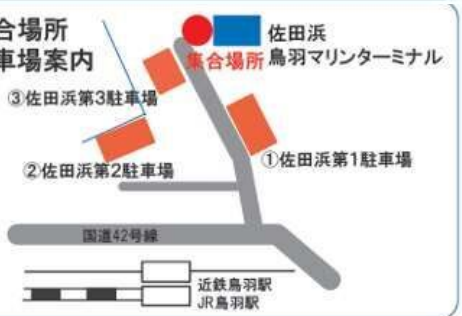
申込み方法　①参加者氏名　②所属（団体・会社・学校等）　③住所
④Email　⑤携帯番号　を　下記Emailまでお送りください。
※グループでお申込みの場合、保険加入に必要なため、参加者全員のご記入をお願いします。

問い合わせ・申込み先
Email：akira713river@gmail.com
（愛知県事務局／近藤　朗　090-1109-3273）



■当日連絡先・お問い合わせ
三重県事務局／山田和幸　090-3951-5881
岐阜県事務局／水﨑貴久彦　090-3566-7126

■現地集合場所及び駐車場案内



7月18日～11月1日
鳥羽市立海の博物館にて
「伊勢湾・鳥羽の海洋ごみ
未来へ向けてできるコト」
企画展を開催しています
来てね！

奈佐の浜プロジェクトも
応援しています



主　　催：22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会
後援（予定）：伊勢湾総合対策協議会・海洋ごみ対策検討会（三重県、愛知県、岐阜県、名古屋市）、鳥羽市

海ごみ 川ごみ問題をふりかえる

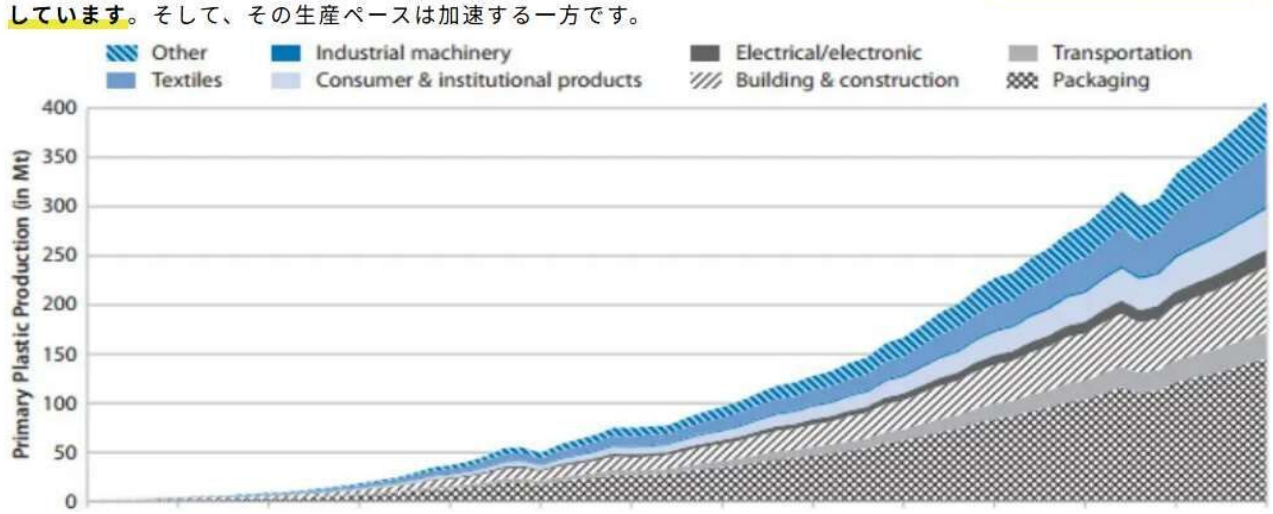
海や川のごみ問題はいつ頃からなのか？そもそも何をもってごみ問題と捉えるのかによって大きく変わるのであろう。1980年に愛知県に入庁した私は、大半を河川行政に関わって来ており、もちろん無関係ではなかった。河川管理者として、ごみ拾いなどの市民河川愛護活動支援もしていたが、当時はごみ活動を美化対策だと捉えていたし、そもそも私自身は「ごみ拾い」という活動が大嫌いだった。なぜ人が捨てたごみを拾わなくてはいけないのか、ましてやそれを罪のない子どもたちにさせるのはおかしいのではないか。ごみ問題はそれを捨てる心ない人たちのモラルの問題だけだろうと捉えていたが、今となってはそれらの認識がいずれも間違っていることに気づいていく。

とりわけマイクロプラスチック問題が認識されるようになってから、ごみ問題は単なる美化問題から水質、そして生態系への深刻な問題だと気づき、私たちが現代社会で今の様な便利な暮らしをしているだけで、それらが環境へと流出すること、すなわち全ての人々ににとって他人ごとではないことに打ちのめされたのである。これらに気づいたのは情けないことについ最近のこと、私が2012年に伊勢湾の海岸漂着ごみ問題に向き合うため、奈佐の浜プロジェクトを始めて以降の話。問題そのものはずっと以前からあろう（下記表参照）。

しかしながら今でも、私は「ごみ拾い」が大嫌いである。むろん環境中から回収する必要はあろうが、まず私たちはそんなことをしなくてもよい社会を目指すべきではないか、と思う。

22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会　事務局長　近藤朗

全世界のプラスチックの生産量は年々増加しており、1975年に5000万トンだった生産量は**2015年には4億トンに達しています**。そして、その生産ペースは加速する一方です。



出典：OECD POLICY HIGHLIGHTS Improving Markets for Recycled Plastics – Trends , Prospects and Policy Responses」）

